

第3部

児童生徒・保護者が抱く将来像に 現在の学校教育は応えられているか？

南 敦資（学研教育総合研究所 特任研究員）

児童生徒が抱く将来像（To Be）に現在の学校教育（As Is）は応えられているか？

児童生徒の間では理系の職業が人気
小学生・中学生・高校生の「将来の職業」

『白書調査』は、将来になりたいと思っている職業をきいているが、ここでは、小学生・中学生・高校生ごとに全体と男女別の結果を上位5位まで示した。

学校種・男女で将来になりたい職業に多少の偏りがあるが、エンジニア・プログラマー、医師、看護師、薬剤師、栄養士といった理系の職業が多く登場する（図1）。

エンジニア・プログラマーは子どもたちの生活にかかわり深いゲームやスマホアプリをつくる職業であり、医師や看護師はメディアでもよく見かける認知度が高い職業なので人気があると考えられる。

しかし、小学生ばかりでなく、中学生・高校生へと成長し将来の志望が現実的なものになっ

ていく中においても、エンジニア・プログラマーと看護師は男女でそれぞれ1位となっている。社会的な需要と年収が比較的高い職業を選んでいるところから、子どもたちは社会をよくみており、現実的な考えをもっているともいえる。いずれにせよ、現在の子どもの間では理系の職業人気が高いようだ。

理系の職業は保護者にも人気

保護者が子どもに将来ついてほしい職業

『白書調査』では、保護者に、子どもに将来ついてほしいと思っている職業もきいている（図2）。

小学生の保護者にきいたところ、1位「公務員」（6.8%）、2位「会社員」（5.2%）、3位「医師（歯科医師含む）」「看護師」（いずれも2.8%）、5位「薬剤師」「エンジニア・プログラマー（機械・技術・IT系）」（いずれも2.7%）。中学生の保護者に聞いたところ、1位「会社員」（8.8%）、2位「公務員」（8.0%）、3位「エンジニア・プログラマー」（機械・技術・IT系）（3.0%）、4位「医師（歯科医師含む）」「看護

図1 将来になりたいと思っているもの

＜小学生＞			＜中学生＞			＜高校生＞		
全体	男子	女子	全体	男子	女子	全体	男子	女子
全体 6=1200	全体 6=600	全体 6=600	全体 6=600	全体 6=300	全体 6=300	全体 6=600	全体 6=300	全体 6=300
1位 パティシエ（ケーキ職） 5.6	1位 ネット配信者（ユーチューバー・インスタグラマーなど） 4.5	1位 パティシエ（ケーキ職） 9.8	1位 会社員 4.2	1位 エンジニア・プログラマー（機械・技術・IT系） 7.0	1位 看護師 5.3	1位 公務員 5.0	1位 エンジニア・プログラマー（機械・技術・IT系） 7.3	1位 看護師 7.7
2位 ネット配信者（ユーチューバー・インスタグラマーなど） 3.0	2位 サッカー選手 4.5	2位 保育士・幼稚園教諭 5.5	2位 エンジニア・プログラマー（機械・技術・IT系） 4.0	2位 会社員 4.3	2位 漫画家・イラストレーター 4.7	2位 エンジニア・プログラマー（機械・技術・IT系） 4.5	2位 公務員 5.0	2位 公務員 5.0
3位 保育士・幼稚園教諭 2.8	3位 警察官 4.2	3位 看護師 4.0	3位 医師（歯科医師含む） 3.5	3位 サッカー選手 4.0	3位 会社員 4.0	3位 看護師 4.0	3位 会社員 4.7	3位 保育士・幼稚園教諭 4.3
4位 警察官 2.8	4位 エンジニア・プログラマー（機械・技術・IT系） 4.2	4位 漫画家・イラストレーター 3.3	4位 公務員 3.3	4位 公務員 3.7	4位 医師（歯科医師含む） 3.7	4位 会社員 3.5	4位 公務員 3.3	4位 学校の教師 3.3
5位 会社員 2.8	5位 その他スポーツ選手（野球、サッカー以外） 4.0	5位 パン屋 3.0	5位 漫画家・イラストレーター 3.0	5位 医師（歯科医師含む） 3.3	5位 公務員 3.0	5位 公務員 3.0	5位 学校の教師 2.7	5位 学校教師 3.3
				ネット配信者（ユーチューバー・インスタグラマーなど） 3.3			5位 経営者 2.7	5位 歌手・アイドル 3.3
								6位 薬剤師 3.3

図2 保護者が子どもに将来ついてほしい職業

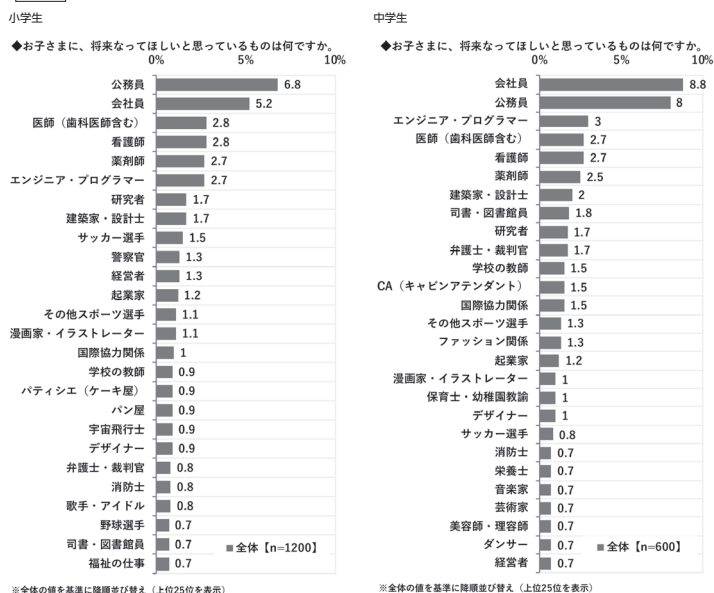


図3 一番好きな教科・一番嫌いな教科

小学生 [n=1200]			中学生 [n=600]			高校生 [n=600]		
一番好きな教科			一番好きな教科			一番好きな教科		
	教科	%		教科	%		教科	%
1位	体育	20.8	1位	数学	19.8	1位	数学	15.2
2位	算数	18.3	2位	英語	14.3	2位	地理歴史	10.7
3位	図画工作	17.1	3位	社会	12.0	3位	保健体育	9.5
4位	国語	8.9	4位	保健体育	11.2	4位	外国語	9.2
5位	音楽	8.0	5位	国語	7.8	5位	国語	7.8
一番嫌いな教科			一番嫌いな教科			一番嫌いな教科		
	教科	%		教科	%		教科	%
1位	算数	22.6	1位	数学	23.5	1位	数学	26.7
2位	国語	17.8	2位	英語	15.7	2位	外国語	17.3
3位	体育	9.2	3位	国語	13.0	3位	国語	9.8
4位	外国語活動/外国語	4.7	4位	社会	7.8	4位	地理歴史	6.8
5位	図画工作	4.5	5位	理科	7.0	5位	理科	6.3

「教師」(いずれも2・7%)、6位「薬剤師」(2・5%)、7位「建築家・設計士」(2・0%)だった。小学生・中学生の保護者となると、1位・2位を会社員と公務員が占めるという現実的な結果となった。しかし、小学生の保護者では3位に医師と看護師、5位に薬剤師とエンジニア・プログラマーが、中学生の保護者では3位にエンジニア・プログラマー、4位に医師が入るなど、理系の職業が上位に入っている。小学生・中学生の保護者においても理系職業の人気の高さがうかがえる。

理系の職業の人気の高い割には、「算数／数学」「理科」が嫌い。小学生・中学生・高校生の「一番好きな教科」「一番嫌いな教科」子どもがなりたいたい職業、保護者がついてほしい職業の双方で、理系の職業が人気であるということがわかった。子どもたちが将来、理系の職業につき活躍するためには「算数／数学」「英語／外国語」「理科」といった教科を学び、試験等で一定の成績を修めることが必須となる。そこで気になってくるのは、子どもたち

に将来、理系の職業につく上で重要となるこれらの教科が好きかということだ。その参考となるのが『白書調査』による「一番好きな教科」「一番嫌いな教科」の調査結果(図3)。

小学生・中学生・高校生に一番好きな教科と一番嫌いな教科を聞いたところ、小学生では「算数」が一番好きな教科の2位(18・3%)、一番嫌いな教科の1位(22・6%)となった。中学生と高校生では、一番好きな教科はともに1位「数学」(中学生19・8%、高校生15・2%)、一番嫌いな教科もともに1位「数学」(中学生23・5%、高校生26・7%)となり、中学生では「英語」が一番好きな教科と一番嫌いな教科で2位(好きな教科14・3%、嫌いな教科15・7%)、高校生では一番好きな教科の4位に「外国語」(9・2%)、一番嫌いな教科の2位に「外国語」(17・3%)が入る結果となった。

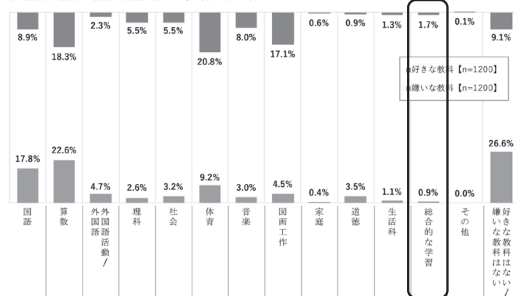
「算数／数学」は、小学生から中学生になると一番好きな教科と回答した児童生徒の割合が増加しているが、高校生では減少している。「英語／外国語」は中学生から高校生になると一番好きな教科と回答した生徒の割合が減少。「理科」に至っては、全学校種で一番好きな教科の上位には入らず、小学生・高校生では一番嫌いな教科の5位に入っている。

「算数／数学」は全学校種で一番好きな教科の2位以内にランクインしており、その割合も小学

図4 「一番好きな教科」「一番嫌いな教科」における「総合的な学習（総合的な探究の時間）」

【小学生】

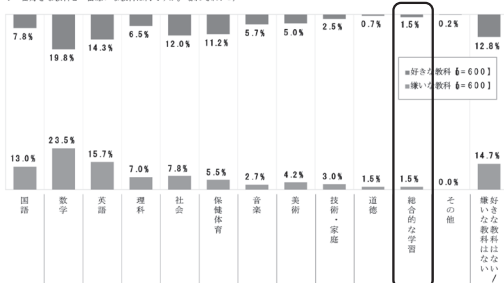
◆一番好きな教科と一番嫌いな教科は何ですか。（それぞれ1つ）



©学研教育総合研究所

【中学生】

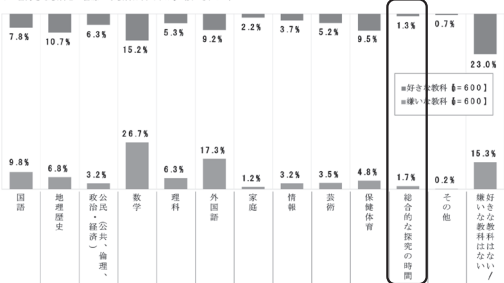
◆一番好きな教科と一番嫌いな教科は何ですか。（それぞれ1つ）



©学研教育総合研究所

【高校生】

◆一番好きな教科と一番嫌いな教科は何ですか。（それぞれ1つ）



©学研教育総合研究所

懸念がある。

保護者が子どもに 習得を期待する 能力とは

非認知能力の修得 「二番好きな教科」「二番嫌いな教科」における

「総合的な学習の時間（総合的な探究の時間）」

保護者は、子どもに認知能力だけではなく非認知能力を身につけることを重視していることが第2部の調査でわかった。非認知能力を身につけるためには探究学習（自分で問題を発見し、自ら学

びを進める学習方法）が有効であるといわれている。

現在、小学校・中学校・高校では「総合的な学習の時間（総合的な探究の時間）」の教科で、探究学習が行われている。探究学習について児童生徒はどのような思いを抱いているのだろうか。

先述した『白書調査』小学生・中学生・高校生の「二番好きな教科」「二番嫌いな教科」をみていくと、「総合的な学習の時間（総合的な探究の時間）」を「二番好きな教科」と回答した小学生は1・7%、中学生は1・5%、高校生は1・3%となった。一方「二番嫌いな教科」と回答したのは、小学生0・9%、中学生1・5%、高校生は1・7%。他の教科と比較して「二番好きな教科」「二番嫌いな教科」ともに低調な回答結果となっている（図4）。

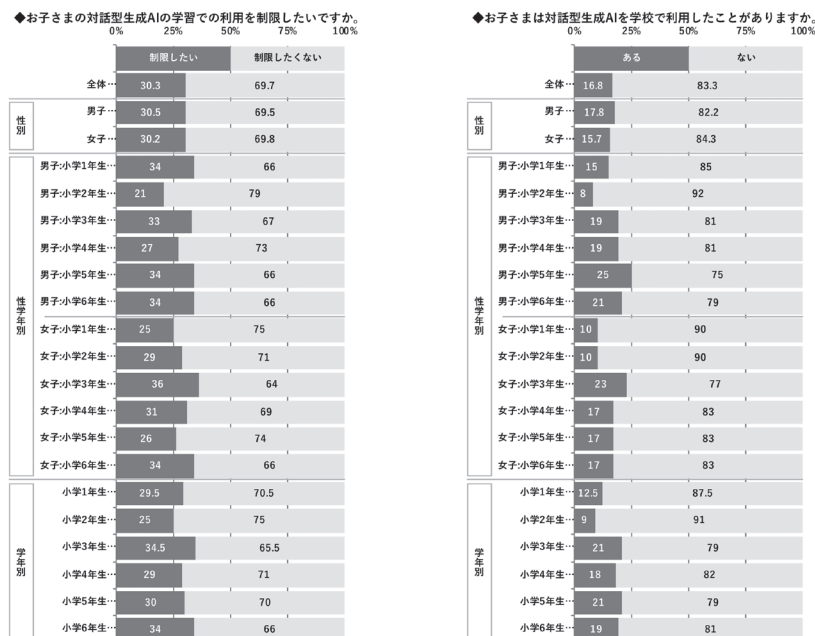
探究学習は学習指導要領で重視されており、学校でも工夫して「総合的な学習の時間（総合的な探究の時間）」に取り組んでいる。非認知能力の育成については、教科としてより浸透させるとともに、学校が探究学習を「算数／数学」「理科」といった既存の教科に落とし込むことで、日常生活ともつながりのある学びとしていくことが、今後の教育界全体の課題になってくるのではないかと。

保護者は子どもの

テクノロジー活用に理解

対話型生成AIに対する小学生の保護者の意

図5 対話型生成 AI に対する小学生の保護者の意識と学校での利用実態



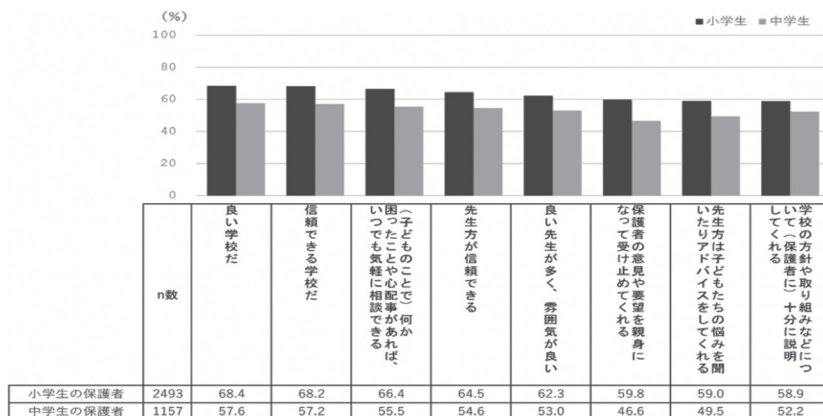
識と学校での利用実態

近年、対話型生成 AI の社会実装が進んでおり、これを学校で利用すべきか否かが今日の教育の論点となっている（対話型生成 AI とは、音声やテキストで質問を入力すると、対話するように自然な文章で応答することができる人工知能を指す）。

『白書調査』で、小学生の保護者に、対話型生成 AI の学習での利用を制限したいかをきいたところ、「制限したい」は 30・3%、「制限したくない」は 69・7%（図5）。

7割近くの保護者が、小学生の子どもの学習に対話型生成 AI を利用してよいと考えていることがわかった。

図6 子ども（第一子）が通う学校の保護者評価（※ 30 項目中上位 8 項目）



では、子どもたちは学校で対話型生成 AI を利用しているのだろうか。『白書調査』で、保護者に、子どもが対話型生成 AI を学校で利用したことがあるかをきいたところ、「ある」と回答したのは 16・8%、「ない」と回答したのは 83・3%に（図5）。一人一台端末化が達成され、学校で対話型生成 AI を利用する環境はあるはずだが、文科省はパイロット校を設けて検証を進める一方、先生の教材作成などの校務での活用が優先的に進められている。

小学生であっても対話型生成 AI を用いて学習することを多くの保護者が肯定的に捉えてはいるが、生成 AI サービスの年齢制限などもあり、その使い方は模索中と思われる。

**学校・先生に
対する保護者の評価は高い！**

子ども（第一子）が通う学校の保護者評価

理系の職業につくことを希望する子どもと保護者、非認知能力の育成、など、学校は児童生徒や保護者のニーズを認識することを求められている。一方で、学校は少なからず保護者から信頼を得ている。

『保護者の教育観調査』では、小学生・中学生の保護者に、子ども（第一子）が通

う学校の評価をきいた(図6)結果、1位は「良い学校だ」で、「そう思う」「ややそう思う」が小学校で68・4%、中学校で57・6%だった。2位は「信頼できる学校だ」が小学校で68・2%、中学校で57・2%に。以下「いつでも気軽に相談できる」「先生方が信頼できる」や「保護者の意見や要望を親身になって受け止めてくれる」など、保護者との関係も良好で、学校への評価も高いことがわかった。

児童生徒・保護者が描く

将来像(To Be)と現在の学び(As Is)のズレとその正体

「児童生徒・保護者が抱く児童生徒や社会の将来像に現在の学校教育は応えられているか?」という視点で本稿を書いたが、『保護者の教育観』調査で子ども将来像について興味深い結果が出ている。親子のコミュニケーションについてきいたところ(図7)、「普段から親子でよく話をする」「親子仲が良い」「子どものやりたいことや好きなこと得意なことを知っている」で、「そう思う」「ややそう思う」と回答した保護者が約8割に達している。また、子どもの将来についてきいた問いには、「子どもの将来をイメージしている」で33・1%、「子どもと進路や将来のことを家族でよく話している」で44・5%、「進むべき進路や勉強の仕方などをアドバイスしている」で42・3%の保護者が「そう思う」「ややそう思う」と回答。これは、保護者の

うち約8割が子どもとよくコミュニケーションがとれており、3割強から4割強が子どもと進路や将来のイメージを共有していると、認識しているといふこと。多くの子どもと保護者が子どもの将来像すなわち、子どもの「やりたいことや好きなこと」「得意なこと」「進路」「なりたい職業」を共有している

と認識している、と考えられる。

『白書調査』で示された児童生徒と保護者の将来像

「なりたい職業」「ついでほしい職業」は、親子が共通して抱く将来像(To Be)ということでもある。

『白書調査』『保護者の教育観』調査からは、児童生徒や保護者が、将来理系の職業につきたい／つかせたいこと、テストの成績ではわからない非認知能力の育成を重視していること、対話型生成AI

の利用を肯定的に捉えていることがわかった。児童生徒や保護者はテクノロジー主導で将来の見通しがつきにくく、不安定な社会を生き抜く上で必要な能力を身につけることを、望んでいると考えられる。

一方、『白書調査』『保護者の教育観』調査からは、児童生徒や保護者の将来像・社会像・学びに対する希望や評価と、現在の学校での学びに「ズレ」が生じているようだ。「ズレ」とは、実生活に役立つ生きた学びであると考えられる。

実生活に役立つ生きた学びとして探究学習が目され、「総合的な学習の時間(総合的な探究の時間)」として実施されているが、『白書調査』によると児童生徒からの人気はイマイチのようだ。

昨年12月に文科省から出された諮問でも、「総合的な学習の時間」は教科としての改善・充実とともに、情報活用能力や教科横断的な学びの充実についての検討が望まれている。

『白書調査』『保護者の教育観』調査からは、学校や先生に対して、保護者が高い信頼を寄せていることもわかった。意見や要望を聞いてくれる、子どもたちのよきアドバイザーとして信頼されている。

社会の変化や子どもたちと保護者のニーズへの対応を常に求められる学校だが、調査で示された保護者の信頼は、今までそれに応えてくれた。今後ともそれに応えてほしいという感謝と期待の表れともいえるのではないだろうか。

図7 親子のコミュニケーションと子どもの将来像の共有

Q 以下について、どの程度あてはまりますか?

小中学生の保護者 (n=3655)

■親子関係に関する項目

普段から親子でよく話をする

親子仲が良い

子どものやりたいことや好きなこと、得意なことを知っている

■子どもの将来に関する項目

子どもの進路や将来のことを家族でよく話している

子どもの将来をイメージしている

